

商品市況展望

平成 24 年 9 月 23 日記

QE3 (Quantitative Easing program 3) とは、量的金融緩和第 3 弾という事である。相場の方は、この金融緩和よりも「中国の反日デモ」の影響が大きかったようで、「出たら終い」というように下げたしまったわけではあるが、今回はもう一度このところの金融市場の流れと、基本的なシステム・用語解説を軽く行ってみたい。

さて、日本では日銀に当たる米国の中央銀行は、FRB (Federal Reserve Board=連邦準備制度理事会) という。この FRB は通常、米国の公定歩合や支払い準備率の決定など金融政策の策定やアメリカ国内の銀行の監視を行っている。メンバーは議長・副議長を含めた 7 人で、任期は 14 年とかなり長い、再任は無い。議長については大統領の指名と上院における承認というプロセスを経た上で 7 人のメンバーの中から選ばれる。任期は 4 年だが再任もあり、現在の議長はベン・バーナンキである。

連邦準備理事会に関係した組織の一つとして、FRB (Federal Reserve Bank=米連邦準備銀行) がある。連邦準備銀行は米国を 12 の地区に分けてそれぞれの主要都市に設置され (例えば NY 連銀とかシカゴ連銀とか)、それぞれの地区で「銀行の銀行」としての役割を果たしている。

どっちも略せば FRB で、最後が Board か Bank かの違いなのでわかりにくい。しかし「銀行の銀行 (銀行に貸付をする銀行という事)」とか言ったって政府機関ではなく、私的法人 (民間銀行) であるのがこの FRB だ。

日銀株は、政府 (財務大臣の名義) が 55% を持ち、残余は一般の国民が保有している。だから独立性があるといっても、私的法人とは呼べない。

だが例えば NY 連銀は、JP モルガン・チェースとシティ・バンク等が 53% 近くの株を保有しており、他の 12 の連銀も同様の株主構成になっている。つまりは、ロスチャイルド・ロックフェラー・モルガン等の世界最強の財閥連合が「FRB を事実上支配」しているわけで、これによって巷で良く言われる「ユダヤ陰謀論」などが出てくるわけだ。史実としてロスチャイルド財閥の創始者は、「国家の通貨の発行と管理さえ任せてくれるなら、誰が法律を作ろうと構わない」と述べたとされており、まんざらこの陰謀論も根拠がないものではないが。

そんなロスチャイルド財閥の創始者の意向を反映するかのよう、FRB の成立は 1913 年の連邦準備法に基づくものだ。1907 年の恐慌に目を付けた国際金融資本 (具体的に動いたのは、J.P.モルガン銀行とロックフェラーのスタンダードオイル社) が、金融悲劇の対策には「中央銀行が必要だ」と要請した事に始まると言われている。それから、金融危機が起きるたびになぜかモルガンやゴールドマンサックスが儲かるシステムが出来上がったわけだ。

そして FOMC (Federal Open Market Committee=連邦公開市場委員会) は、連邦準備制度理事会の最高意思会合となっているわけで、ここでの決定が米国の金融政策=実質的には世界の金融政策を決める場所になっているわけだ。市場が相場材料として、注目するのは当然だ!

なおこの委員会は FRB の理事 7 名と 5 名のニューヨーク連銀を含む地区連銀総裁で構成され

ている。議長は FRB 議長が、副議長は NY 連銀総裁が担当する事となっている。当然そこには株主の意向も反映されるはずで、オバマの意向なんぞ大した割合じゃあるまい。

さてまた QE3 (Quantitative Easing program 3) に戻ると、**通常の金融緩和策が政策金利を引き下げるものであるのに対し、QE(Quantitative Easing program)は市場に供給する資金量を増加させることで金融緩和を図るもので、いわばヘリコプターでカネをばらまく政策**なわけだ。

景気が悪化状態にある時、一般的には金利を引き下げる策が用いられる。だが現在のように、すでにゼロ金利の状態にある場合は、通常の金融政策では不可能だ。だから中央銀行が資産の買い入れを行って、市場に出回る資金量を拡大するという量的緩和策を取るわけだ。

QE1 は、2008 年のサブプライムローン問題を受けたリーマンショックや世界同時株安といった金融危機が起こった際に、FRB によって 2009 年 3 月から 2010 年 3 月まで実施され、日本円にして 100 兆円以上が投入された。

第 2 弾の QE2 は、景気回復の促進とインフレ率低下の阻止を目的として実施され、長期金利の押し下げを狙い、2010 年 11 月から 2011 年 6 月までの約 8 ヶ月間に渡って、1 ヶ月あたり約 750 億ドルのペースで合計 6000 億ドル (約 50 兆円) の米国債の追加購入が行われた。

そして今回の QE3 である。

- 1、 毎月 400 億ドルのペースで MBS (住宅ローン担保証券) を購入する。
- 2、 これは、労働市場の持続的改善と失業の減少を促すほど経済が強い事が確認できるまで続ける。
- 3、 本年 6 月に延長を決定したツイストオペは維持する。
- 4、 ツイストオペの緩和分を考慮すると、毎月 850 億ドルの緩和ということになる。
- 5、 政策金利である FF レートの水準を少なくとも 2015 年半ばまで維持する。

総額で 200 兆円以上にもなるか? というくらいカネをばらまく予定というのだから、インフレにならないわけではないと思うのだが、相場はこの発表 (13 日) があって 2 日後にはもう下げ始め、その後の中国の反日デモならぬ反日テロ (ロレックスやマクドナルドまで襲われたというのだから、反日でもない単なる暴動と呼んだ方が良いでしょう) で急落。

先の ECB (European Central Bank=欧州中央銀行) 理事会 (6 日) は、無制限での国債購入の決定でユーロ高になったものの、これは例えばスペインが景気や一段の雇用悪化に繋がる恐れのある財政再建を受け入れるか? という問題があるため、また国債買い入れは『マネーサプライを増やさないように国債買い取りで市場に放出された資金を吸収する不胎化政策を採る』ため、必ずしもインフレには繋がらない可能性を指摘した。

だが今回の QE3、そして先週 (19 日) に出た日銀による追加金融緩和=国債買い入れ 10 兆円増額も、全部吹っ飛ばされる格好になるとは、正直想定外であった。

これら全部が「出たら終い」になってしまったのか、冷酒のように後で効いてくるのか、その先行きは、神のみぞ知る。

〔貴金属〕

○東京金日足
…削除済み…

今週の金の値動き

	10月限(当限)	前日比	8月限(先限)	前日比
9月18日	¥4,436	8	¥4,449	9
9月19日	¥4,516	80	¥4,528	79
9月20日	¥4,428	-88	¥4,442	-86
9月21日	¥4,450	22	¥4,461	19

金相場は、先週号においては『QE3が発動された相場は一段高に舞い上がる可能性が高いだろう。最終的には5,000円台に乗せてゆくと考え、下がる場合は指数調整だけであろう。よって、押し目買い方針を堅持するのがベターであろう』とコメントした。

今週の相場展開は、9/19には4,540円まで駆け上がり、6月・7月の4,000円を割れていた水準からは大きく上昇したわけだ。

しかし20日には大きく失速する事となり、その後は4,400円台前半まで100円超の下げ。週末の夜間取引では、高値4,508円と一時は再び4,500円台を回復するものの、その後はまた伸び悩んでの4,460円台の引けである。

日米で行われた金融緩和も、今のところ出る前までの一ヶ月は500円の高騰で、「出たら終い」の様相を見せている。一番の懸念は、外資流出からの中国経済大失速懸念である。

反日デモは完全に中国共産党の指導の下に行われた官製デモだと考えられ、…中略…

だがそんな事はともかく、すでに中国経済の高度経済成長というのは止まっていたわけで、そんな中での騒動は、やはり日本の民間の資本流入を阻害し、むしろ流出させる方向に向かうと思われる。…中略…

つまり今の相場は、金融緩和によるインフレ懸念と、中国を中心とした経済の悪化懸念との綱引きであり、どちらの材料がより強く意識されるかで乱高下すると考えるのが妥当だろう。

そうすると、やはり相場判断はチャートでという事になるのだろうが、…中略…

なお一代の動きは以下のとおり。

東京金一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2012年10月	¥4,229	10月27日	¥4,652	2月27日	¥3,808	12月30日	¥4,450
2012年12月	¥4,037	12月26日	¥4,654	2月27日	¥3,808	12月30日	¥4,457
2013年2月	¥4,654	2月27日	¥4,654	2月27日	¥3,885	6月4日	¥4,457
2013年4月	¥4,307	4月25日	¥4,536	9月19日	¥3,886	6月4日	¥4,458
2013年6月	¥4,023	6月27日	¥4,537	9月19日	¥3,940	7月24日	¥4,459
2013年8月	¥4,224	8月29日	¥4,540	9月19日	¥4,166	9月3日	¥4,461

○NY 金日足

…削除済み…

週末 9/21 の NY 市場は、前日比 7.8 ドル高の 1778.0 ドルでの終了。国内換算では 15 時半比 13 円高。

高値は 1790.0 ドルまであり、これは 9/19 の高値 1781.8 ドルを抜いて高値更新の価格。一時的にしろ、国内が 4,540 円を記録した時点よりも上昇しているわけで、NY 金は東京よりも強く見えるところ。

CFTC 発表の 9/18 現在のファンドのポジションは、…中略…

ファンド買いは 5 週連続増であり、今回の QE3 発動での増加はそんなに多くないが、増えている事は事実。過去は 25 万枚のロングまで積み上がった事もあり、現状ではまだ積み上がっても不思議ではない。

9/21 現在の ETF 残高は、…中略…

こちらは 8 週連続で増加であり、史上最大の買い残を更新中。

結論として当方の相場観は、目先天井を打っているならば、まずは 4,200 円辺りまでの調整安はありそうだ。しかし NY 市場では、ファンド買い・ETF 買いもまだ増加中であり、このまま押さずに高値追いつける可能性も残っている。抜ければ年初来高値更新の、4,654 円オーバーを目指す事となるだろう。

○東京プラチナ日足

…削除済み…

今週のプラチナの動き

	10月限(当限)	前日比	8月限(先限)	前日比
9月18日	¥4,195	-73	¥4,201	-75
9月19日	¥4,177	-18	¥4,182	-19
9月20日	¥4,072	-105	¥4,096	-86
9月21日	¥4,137	65	¥4,141	45

プラチナ相場は、先週号においては『プラチナ相場は全く新しいステージに入った可能性が高く、今後も上昇余力が十分にあるだろう。懸念は高い相対力指数であるが、調整安はその指数調整であろうから、そうした場面が絶好の押し目買いになるだろう』とコメントした。

今週の相場展開は、9/18には4,336円まで上昇であったが、これは実際には先週末の夜間取引での価格。連休明けは値を消して始まり、更にその後も3連続陰線で値を消し、4,050円(9/21)まで300円近く下落の後、100円ほど戻しての終了である。

その後の夜間取引では、4,100円台前半でのみみ合いである。

13日は南アの鉱山ストの報で急騰、14日はQE3実施の報で更に急騰となった相場が、材料織り込み済みとされた事や、鉱山スト終結の報で急落。鉱山ストで買われる前の水準まで落ちたが、またスト懸念は発生するかも…と戻したり、如何にも不安定な展開だ。

チャートでは相対力指数も60ポイントまで一度低下し、指数調整の下げだとすれば、この程度の下げは許容範囲。しかし反日スト～株価の下落など不安定材料も多く、景気に敏感に反応するプラチナ相場の先行きの見通しは難しい場面だ。

反日ストはすでに落ち着いているが、…中略…

また中立に戻すしかないというのが当方の基本的な考え方だ。

なお週末9/21のNYプラチナは13.7ドル高の1637.6ドルでの終了。高値は1716.5ドル(9/14)からは一時100ドル超の下げであったが、3日で100ドル上げて、3日で100ドル下げるという激しい展開だった。

一代の動きは以下のとおり。

東京プラチナー代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2012年10月	¥3,918	10月27日	¥4,570	3月14日	¥3,375	12月30日	¥4,137
2012年12月	¥3,605	12月26日	¥4,582	3月14日	¥3,471	7月24日	¥4,134
2013年2月	¥4,535	2月27日	¥4,589	3月14日	¥3,468	7月24日	¥4,128
2013年4月	¥4,090	4月25日	¥4,322	9月18日	¥3,466	7月24日	¥4,126
2013年6月	¥3,681	6月27日	¥4,329	9月18日	¥3,460	7月24日	¥4,132
2013年8月	¥3,860	8月29日	¥4,336	9月18日	¥3,807	8月31日	¥4,141

○プラチナ－金価格差日足

…削除済み…

週末現在のサヤは、4,141 円（プラチナ）－4,461 円（金）＝－320 円。

－550 円（8/13）は大底、－378 円（8/31）は 2 番底だろうが、逆に－164 円（9/14）も戻り天井になった模様。

QE3 の発動で商品市場にお金は流れやすくなるというのが材料だけならば、『相場が上昇する局面では金売り・プラチナ買いに分があるのが通常パターン』であるが、他の材料とも複合して動いている状況では、こちらもちょっと先行き不透明だろう。

結論として当方の相場観は、戻り売りか、押し目買いなのか微妙なところだ。目先は仕掛けを手控えて、それを見極める場面だろうと考える。いずれにせよ、今は金よりも相場が強いという事はなさそうだ。

〔穀物〕

○東京コーン日足

…削除済み…

今週のコーンの値動き

	11月限(当限)	前日比	9月限(先限)	前日比
9月18日	¥27,400	-380	¥26,360	-470
9月19日	¥27,200	-200	¥26,260	-100
9月20日	¥27,200	0	¥26,300	40
9月21日	¥26,800	-400	¥26,370	70

まずはコーンから…

先週号においては『米農務省報告では期待外れであったが、QE3の実行で基本的には強いファンダメンタルズが見直されれば、もう一度高値を付けに行く相場が出るのではあるまいか。次週の動きで、チャート悪化による調整安期間が終わったかどうかハッキリするだろう』とコメントした。

今週の相場展開は、続落した相場が 26,050 円 (9/18) まで値を消し、その後は小動きで横ばい。

QE3 で買われる事は無く、現状ではチャートの三尊天井形成後の下落局面がまだ続いている状況である。シカゴもハーベスト・プレッシャーを受けて軟調な展開である。

チャートでは一目均衡表の雲の中での推移であり、もう少し下がれば雲の下に抜ける。相対力指数は 35 ポイント台まで下げており、これもどうせなら一段安で底を打ってくれた方が「アク抜け」が早いだろう…という風に見える局面だ。

どう見ても 3 万円で天井は打っている格好であるが、かと言って 7 月限が始まった時の価格である 21,000 円台まで下げてゆく感じもなく、年間の中での高値圏は保ちそうだ。

結局のところ、25,000 円～28,000 円程度での推移なのかな？という情勢である。ともかく QE3 の発動は完全に肩すかしを喰らった形であり、今後は南半球での天候がどうなるかが、相場の動向を決めるのかもしれない。

なお一代の動きは以下のとおり。

東京コーン一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2012年11月	¥24,400	10月17日	¥31,810	8月23日	¥21,060	6月4日	¥26,800
2013年1月	¥21,790	12月16日	¥30,950	8月22日	¥20,520	6月4日	¥27,300
2013年3月	¥23,290	2月16日	¥30,340	8月22日	¥20,820	6月4日	¥27,100
2013年5月	¥23,250	4月16日	¥30,300	8月13日	¥21,040	6月4日	¥27,190
2013年7月	¥21,550	6月18日	¥30,300	8月13日	¥21,490	6月18日	¥27,020
2013年9月	¥28,500	8月16日	¥29,430	8月23日	¥26,050	9月19日	¥26,370

○シカゴコーン日足

…削除済み…

週末 9/21 のシカゴ市場は、12 月限で 2.25 セント高の 748.25 セントでの終了。米農務省報告後の安値 759.25 セント (9/12) はすでに 739.00 セント (9/18) と割り込んでおり、そこからは横ばいの展開だ。

東京市場換算だと 15 時半比 20 円高であるが、限月が先に行くほどマイナスのところもあり、あまり格好の良い状況ではない。

なお CFTC 発表の 9/18 現在のファンドのポジションは…中略…

結論として当方の相場観は、ホット&ドライでの凶作は高値で織り込み済みの相場であり、それは三尊天井を形成済みである事からも実証されるだろう。しかし往って来いするほどファンダメンタルズは悪くなく、金融緩和の影響もある。となれば、この値位置での逆張りの展開が妥当なのだろうと見る。

○東京大豆日足

…削除済み…

今週の大豆の値動き

	10月限(当限)	前日比	8月限(先限)	前日比
9月18日	¥57,990	-1910	¥49,440	-1280
9月19日	¥58,500	510	¥49,800	360
9月20日	¥58,000	-500	¥49,400	-400
9月21日	¥57,200	-800	¥48,890	-510

続いて一般大豆です…

先週号においては『押し目買い方針に変化はないだろう。先物で52,000円と来れば舞い上がる可能性があるし、5万円割れとなれば調整期間は長引くだろう。来週の動きに注目である』とコメントした。

今週の相場展開は、連休明けの急落であっさりと5万円を割り込み、その後も戻りは売られて48,000円台に突入。

先週12日の米農務省報告では強材料が出たが国内は伸び悩み、13日のQE3発動も結局は材料にならずである。材料としてはどこも解説をしていないが、**中国の反日デモから同国の大豆輸入に支障をきたすとの思惑も出ているのかもしれない。**

チャートでは目先の下値支持線49,040円を割り込んでおり、小さなWトップを形成済み。次の下値抵抗線は47,620円であり、その次は46,400円である。もしもそこまで下がれば、さすがに戻すだろうが、まだ2,500円ほど下が有り得るという場面だろう。

逆ザヤなのだから、基本的には強い相場かもしれないが、先物チャートでは上昇のきっかけを逃し、むしろ悪化したのだから、手放しで強気する相場ではないだろう。

なお一代の動きは以下のとおり。

東京一般大豆一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2012年10月	¥44,250	10月17日	¥62,100	7月23日	¥36,410	12月15日	¥57,200
2012年12月	¥37,500	12月16日	¥63,950	7月23日	¥36,830	12月16日	¥55,290
2013年2月	¥41,900	2月16日	¥60,000	7月23日	¥41,050	2月16日	¥52,480
2013年4月	¥45,350	4月16日	¥56,480	7月23日	¥41,750	6月4日	¥51,460
2013年6月	¥44,700	6月18日	¥52,190	7月20日	¥44,400	6月18日	¥49,860
2013年8月	¥48,020	8月16日	¥51,810	9月5日	¥47,620	8月17日	¥48,890

○シカゴ大豆日足

…削除済み…

週末9/21のシカゴ市場は、11月限で前日比3.00セント高の1621.75セント。直近の高値は1789セント(9/4)であり、そこから17日のストップ安の急落などを経て、すでに170セントほど(10%弱)下げている展開である。この下げは、ヘーベスト・プレッシャーの高まりが原因と言われている。

収穫はコーンとともに順調に進んでおり、一部では想像していたよりは単収が高い（9月米農務省報告 35.30Bu/Ac→35.85Bu/Ac）との観測も出ており、降雨不足のブラジルで雨が降ったことなども、弱材料視されている。

もともと、多少単収が上がったからといって在庫逼迫が解消されるわけではなく、またエルニーニョ現象が懸念されている南米の豊作を囃すのも早過ぎる。今からそれを言うと、米国でも作付面積増から大きく売られていた6月の相場のようにになってしまう可能性があり、かえって後の急騰の危険性が増す。

とは言っても、チャートが悪い中で、強材料も無い状況では、目先は安値志向となるのは致し方の無いところ。

なお CFTC 発表の 9/18 現在のファンドのポジションは、…中略…

結論として当方の相場観は、米農務省報告、QE3 での資金流入は見られず。現状では強材料織り込み済みの中で、さしたる新たな買い材料もないゆえ、調整安は継続するか。もう少し大きく下げないと、アク抜けしないかもしれない。

[ゴム]

○東京ゴム日足
…削除済み…

今週のゴムの値動き

	9月限(当限)	前日比	2月限(先限)	前日比
9月18日	239.3	1.3	256.2	1.6
9月19日	242.0	2.7	260.0	3.8
9月20日	240.0	-2.0	253.9	-6.1
9月21日	243.0	3.0	257.0	3.1

先週号においては『底打ちから本格的な急騰を開始した相場は、300円を目指しての上昇トレンドに入っているだろう。おそらく240円以下は用済みであり、押し目買い方針への大転換が良いただろう』とコメントした。

今週の相場展開は、続伸した相場が**263.6円(9/19)**まで上昇。しかし260円台は長続きせず、250円台に落ちてのもみ合いとなった。

205.6円(8/14) → 263.6円(9/19)までの上げ幅は58円であり、およそ一ヶ月で約60円の上昇となったわけだ。

次のターゲットは**282.0円(5/22)**であり、300円を目指しての上昇相場であると考えているものの、QE3をきっかけとした買いは他商品にも入っておらず、反日中国の先行きを考えても、果たして自動車が今以上に売れるか？という疑問を呈しざるを得ない。

そう考えると、**260円台は目先いっぱいかもしれない。240円辺りなら買いたいが、それまでは戻り売りも十分にアリだろう。**

なお一代の動きは以下のとおり。

東京ゴム一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2012年9月	341.2	3月27日	341.9	3月27日	198.5	8月15日	243.0
2012年10月	307.2	4月24日	317.8	5月2日	200.9	8月15日	254.0
2012年11月	267.8	5月28日	274.0	5月30日	203.6	8月15日	254.6
2012年12月	233.3	6月26日	259.6	7月4日	204.5	8月15日	254.5
2013年1月	230.2	7月26日	261.5	9月19日	205.6	8月14日	255.4
2013年2月	230.0	8月26日	263.6	9月19日	216.4	8月31日	257.0

当先のサヤは、9月限243.0円～2月限257.0円と**14.0円の順ザヤ**。当限を除くと**同ザヤ**と言っても良い水準であるが、逆ザヤ化するとは思えない。中物の売りも一考か。

週末現在の輸入採算価格は、…中略…

国内営業倉庫在庫は、9/10現在で228トン減の6,417トン。12旬連続の減少であり、国内在庫の低下は続いている。

上海ゴム在庫は、…中略…

上海ゴム価格は、24,000 元台半ばまで上昇の後、もみ合いに入っている。

タイ政府は、300 億バーツの追加資金を上乗せする市場介入策を発表。当然強材料ではあるが、こういう材料には過敏に反応しない方が良さそう。3月を思い出せば判ることだ。

結論として当方の相場観は、大勢では上昇トレンドだろうが、260 円台で頭が重くなった印象が強い。目先は調整局面入りと見て、240 円辺りまでの押しが先との判断である。

〔原油・石油製品〕

○NY 原油日足

…削除済み…

今週の原油の値動き

	9月限(当限)	前日比	2月限(先限)	前日比
9月18日	¥55,400	-660	¥53,430	-1350
9月19日	¥55,540	140	¥53,560	130
9月20日	¥54,540	-1000	¥50,700	-2860
9月21日	¥54,730	190	¥51,500	860

まずは原油から…

先週号においては『押し目買い一貫の相場であろう。すぐに飛び乗れ!』とコメントした。

今週の相場展開は、NY原油はQE3が発動された13日の翌日には、100.42ドル(9/14)と100ドル台乗せまで上昇。しかし日本市場が3連休の中行われた17日は急落であり、その後も3日連続安で90.66ドルまで急落。

週末は何とか下げ止まり、高値93.84ドル、終値92.89ドルまで戻している。

先週号で『QE3=金融緩和は商品相場には間違いなく強材料であり、過去のQE1、QE2ともに相場は上昇しているわけだ。そう考えれば、欧州債務危機問題で100ドル台→77ドル台まで下げて底を打った相場は、単なる戻りという範疇を超え、また新たなステージに入ったと考えて何の支障があるか。上抜けには付いてゆくべきだろう』とコメントしたわけだが、あっという間に10ドル下げの暴落を喰らったのでは、全くチャレにもならない展開だ。

中国の反日デモが、強材料をすべて吹っ飛ばしてしまった格好であろう。

なお週末のロンドンブレントは…中略…

ただし9/18現在のファンドのポジションは、…中略…

このファンドのポジションは9/18時点のもので、19日も米国内原油在庫が予想外に増加したと急落したわけだが、それでこれだけ下げるのは妙な話で、それよりもIEA(国際エネルギー機関)が世界石油需要の増加が鈍化するとの見通しを出す中で、中国の反日デモや欧州情勢なども嫌気されたのかもしれない。

ただし中国の官製反日デモも下火になるはずだし、…中略…

○東京原油日足

…削除済み…

東京原油は、55,540円(9/18)まで上昇の後に暴落。ただしこの高値は、実際は日本時間14日夜の時点であり(営業日は前日17時が始値、当日15時半が終値とカウントするため)、国内市場3連休明けの18日9時を迎えた時点では、すでに大きく下げていたわけだ。

その後も20日に暴落した相場は、一気に50,290円の安値まで記録。高値からは5,000円超の暴落となり、その後は反発して夜間取引も含めれば安値から2,000円の戻り。

先週号では『QE3発動で、抜けたばかりの相場である。おそらく6万円を目指す展開だろう』としたわけだが、曲がった相場は早めに訂正だ。

おそらく **55,540 円は天井**であり、そうそう簡単には抜けないだろう。抜くには、何か強烈な強材料が要るだろう。戻りは 53,000 円までは可能性があるが、51,000 円～53,000 円でのみ合いが順当なところ。逆に弱く 5 万円割れとなった場合は、なお 2,000 円下げの 48,000 円台が目標になるだろう。

もちろん…中略…

なお一代の動きは以下のとおり。

東京原油一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2012 年 9 月	¥60,800	4 月 2 日	¥61,900	4 月 4 日	¥43,780	6 月 26 日	¥54,730
2012 年 10 月	¥57,430	5 月 1 日	¥57,710	5 月 2 日	¥44,310	6 月 26 日	¥52,840
2012 年 11 月	¥47,650	5 月 1 日	¥56,110	9 月 18 日	¥44,190	6 月 26 日	¥52,510
2012 年 12 月	¥47,580	7 月 2 日	¥56,080	9 月 18 日	¥46,240	7 月 3 日	¥52,160
2013 年 1 月	¥48,890	8 月 1 日	¥55,790	9 月 18 日	¥48,420	8 月 1 日	¥51,860
2013 年 2 月	¥53,910	9 月 3 日	¥55,540	9 月 18 日	¥50,290	9 月 21 日	¥51,560

結論として当方の相場観は、NY 原油 100 ドル、東京原油 55,000 円で目先の天井は打ったか。戻り売り方針で、買いは次の底入れを待っての仕掛けが良いだろう。

○東京ガソリン日足

…削除済み…

今週のガソリンの値動き

	10月限(当限)	前日比	3月限(先限)	前日比
9月18日	¥67,790	-1160	¥64,510	-1840
9月19日	¥68,070	280	¥67,710	210
9月20日	¥66,290	-1780	¥61,640	-2920
9月21日	¥67,750	1460	¥62,580	940

続いてガソリンです…先週号においては『QE3 発動で、もみ合い上放れになった相場である。相場はまずは7万円を目指すとの判断で、再び買い方針を強めるのが良いだろう。押し目買い一貫の相場であると考え』とコメントした。

今週の相場展開は、67,170円(9/18だが、実際は連休前の価格)まで上昇の後、3連休明けから急落。特に9/20の下げは酷く、61,020円(9/21)まで都合6,000円超の暴落となった。

その後は夜間取引も含め2,600円ほど戻しているが、大きくひびが入ってしまった事には変わりがないと言えるだろう。

チャートではちょうど一目均衡表の雲で支えられたが、64,000円まで戻したとしても、下げ幅の半値戻しだ。67,000円は天井であるという見方をした方が、当面は無難なのではなかろうか。

…中略…

なお一代の推移は、以下のとおり。

東京ガソリン一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2012年10月	¥74,980	3月26日	¥75,430	3月28日	¥54,850	6月26日	¥67,750
2012年11月	¥69,280	4月26日	¥69,690	4月27日	¥54,040	6月26日	¥64,780
2012年12月	¥61,470	5月28日	¥66,660	9月18日	¥53,530	6月26日	¥63,550
2013年1月	¥54,070	6月26日	¥66,530	9月18日	¥53,460	6月26日	¥62,640
2013年2月	¥58,670	7月26日	¥66,350	9月18日	¥58,160	7月27日	¥62,150
2013年3月	¥64,510	8月27日	¥67,170	9月18日	¥61,020	9月21日	¥62,580

先物4本が一代高値の更新であり、その後の急落で先物だけ一代安値の更新。

9/21 現在の業者間転売価格は、…中略…

9/15 現在のガソリン在庫は、…中略…

結論として当方の相場観は、今週の6,000円超の下げで、相場には完全にひびが入った展開だろう。よって67,000円台は天井と見て、戻り売り方針に転換。何らかの強烈的な買い材料が出るまでか、あるいは自然に底打ちするまでは、戻り売りであろう。

○東京灯油日足

…削除済み…

今週の灯油の値動き

	10月限(当限)	前日比	3月限(先限)	前日比
9月18日	¥68,620	-1390	¥67,500	-1540
9月19日	¥68,810	190	¥67,710	210
9月20日	¥66,630	-2180	¥64,990	-2720
9月21日	¥67,600	970	¥65,970	980

最後に灯油です…先週号においては『買い一貫の相場であろう。特に12月限、1月限、2月限の3本は上昇余地が大きいとの判断である』とコメントした。

今週の相場展開は、69,750円(9/18だが、実際は連休前の14日)まで上昇の後、連休明けは急落。20日にも大きく下げ、64,440円(9/21)まで5,000円以上の下げとなり、そこからは週末の夜間取引も含めて2,000円超の戻りである。

下げたのは先物に限らず、例えば1月限も70,400円→65,340円まで5,060円の下げであり、その後およそ半値戻しの2,320円幅戻したが、とにかくまんべんなく下げたわけだ。

チャートは一目均衡表の雲で支えられたものの、Wトップを形成したこともまた事実。こういうひびが入った相場であり、69,750円で天井は打ったのだろうとの判断に180度方針転換である。

もっとも在庫状況や季節習性を考えた場合は、…中略…

なお一代の推移は、以下のとおり。

東京灯油一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2012年10月	¥74,590	3月26日	¥75,370	3月28日	¥55,650	6月29日	¥67,600
2012年11月	¥70,800	4月26日	¥71,400	4月27日	¥56,350	6月26日	¥67,150
2012年12月	¥64,110	5月28日	¥70,550	9月18日	¥56,800	6月26日	¥67,180
2013年1月	¥57,800	6月26日	¥70,400	9月18日	¥57,080	6月29日	¥66,970
2013年2月	¥61,810	7月26日	¥70,230	9月18日	¥61,350	7月26日	¥66,690
2013年3月	¥67,500	8月27日	¥69,750	9月18日	¥64,440	9月21日	¥65,970

9/21現在の業者間転売価格は、…中略…

9/15現在の灯油在庫は、…中略…

結論として当方の相場観は、12月限～2月限の新規売りはしたくないが、先物は7万円を目前に天井を打ったとの判断で、戻り売り方針へまた転換である。

[為替]

○ドル/円相場日足

…削除済み…

QE3 の発表では円高に、日銀の金融緩和では円安に振れたものの、いずれもその一瞬だけで終了。78 円辺りでのみ合いが続いている。

週末の NY 市場でも動きはなく、さてこのこうちやく状態は、一体どのような材料が出れば打開出来るのだろうか…という状況だ。

○ユーロ/円相場日足

…削除済み…

ECB 理事会での国債無制限購入にニュース～ドイツ憲法裁判所が ESM 合憲判断などで円安/ユーロ高が進んだ市場は、103.84 円 (8/17) で頭打ち。東京市場が 3 連休中の出来事だ。

日銀の金融緩和も全く材料にはなっていないのがユーロ/円相場であり、さてこれが何を意味するのかは、もうしばらく考えてみたい。

○ユーロ/ドル相場日足

…削除済み…

このチャートも 1.317 ドル (9/17) と東京市場 3 連休中にドル安/ユーロ高はピークを打ち、その後調整局面入りとなっている。

通常、ドル建て商品相場は、ユーロ/ドル相場がドル安に向かえば上昇する、逆にドル高に向かえば下落するわけだ。東京商品市場が連休明けから急落となったのは、休み中にドル高で米国商品市場が下落に転じた事も大きかったのだろう。

このレポートは、私が個人的な判断で書いたものです。

内容の責任はすべて私に帰するものですが、取引に対する利益を保証するものではありません。

(当たり前ですが念のため)

ひげの中ちゃん相場情報

中田幸一郎

メールアドレス info@higenaka.com